

半田市地域公共交通計画

(素案)

2024年 4月
半田市

目次

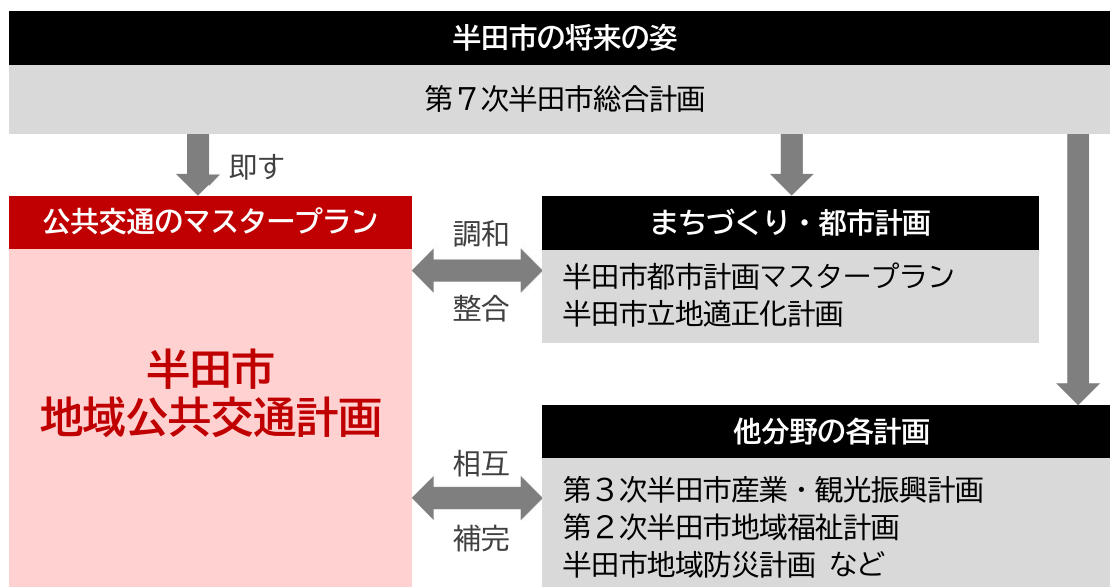
1. はじめに	1
1) 計画の位置付け	1
2) 計画の期間	1
3) 計画の区域	2
2. 半田市の地域概況	3
1) 半田市について	3
2) 地域公共交通について	6
3. 上位・関連計画の整理	9
1) 半田市の上位・関連計画	9
2) 公共交通に関連する社会情勢	13
4. 公共交通に関するニーズ把握	15
1) 市民アンケート調査	16
2) バス利用者アンケート調査	17
5. 現計画の達成状況の評価	18
6. 地域公共交通の課題	24
7. 基本的な方針と目標	28
8. 目標を達成するために行う事業	
9. 評価・計画推進について	
資料	

1. はじめに

1) 計画の位置付け

本計画は、本市の最上位計画である「第7次半田市総合計画」に即し、半田市都市計画マスタープランや、半田市立地適正化計画といったまちづくり・都市計画に関する計画の内容と調和・整合を図りつつ、防災・観光・産業・福祉等の他分野の各計画と相互に補完し合いながら、本市の目指すべき都市像の実現に向けた取組みを進めるものとしします。また本計画は、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（地域交通法）の規定に基づく計画として策定します。

▼ 半田市地域公共交通計画の位置付け



2) 計画の期間

本計画の期間は、上位・関連計画の更新時期に合わせるため、2025年度～2030年度の6年間としますが、関連する法令・制度の変更や、社会情勢の変化等に合わせた対応が必要となった場合においては、計画の変更等を行います。

▼ 半田市地域公共交通計画の計画期間

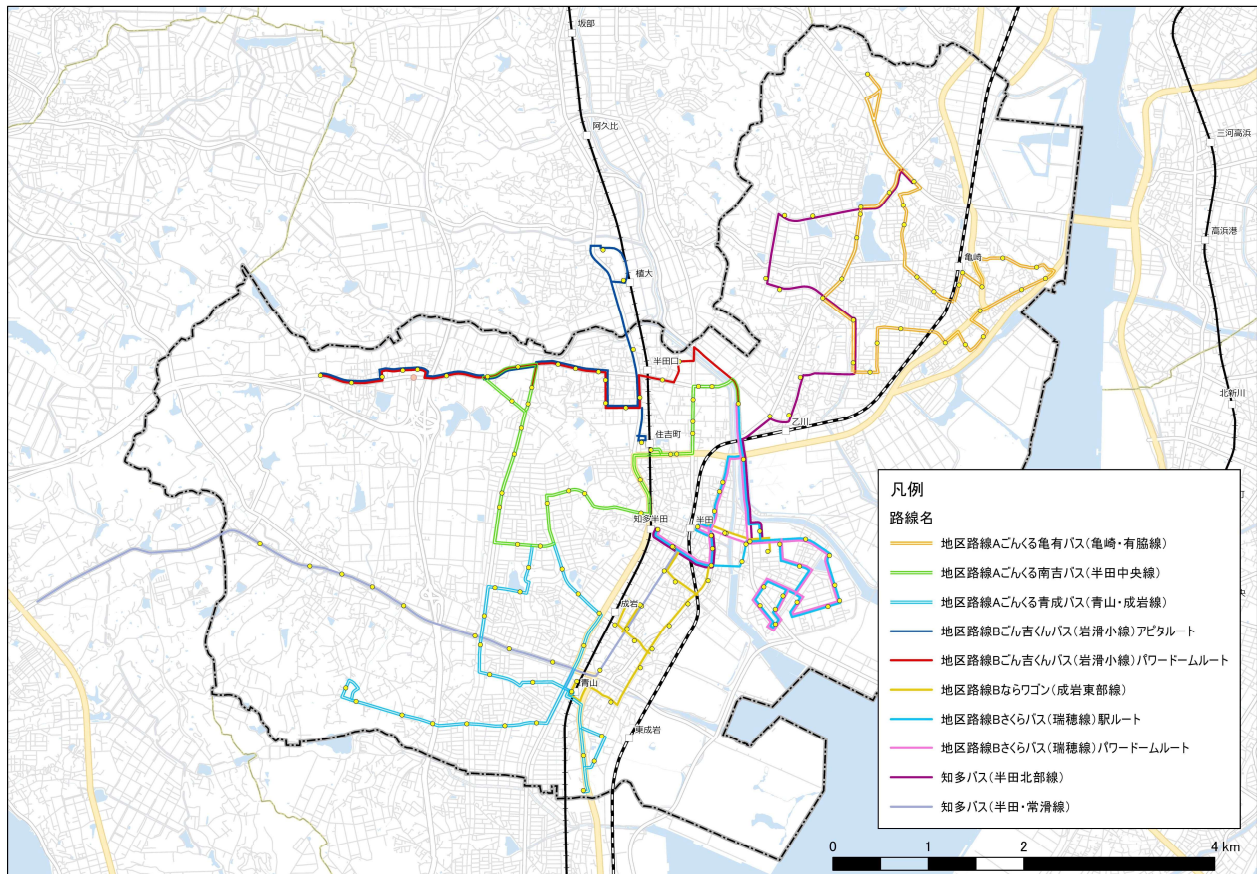
	～2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031～
第7次半田市総合計画	2021年度～2030年度							次期計画
半田市都市計画マスタープラン	2021年度～2030年度							次期計画
半田市立地適正化計画	2021年度～2040年度							
半田市地域公共交通計画		2025年度～2030年度						次期計画

3) 計画の区域

本計画は、市内の公共交通全体を一体的に取扱うことから、計画の区域は半田市全体とします。

なお、本市と周辺市町とを連絡する公共交通ネットワークの状況や、住民等の日常生活における市域を超える交通圏など、周辺市町に関わる事項については、個別に協議・調整を図ることとします。

▼ 半田市地域公共交通計画の区域



資料：半田市資料

2. 半田市の地域概況

1) 半田市について

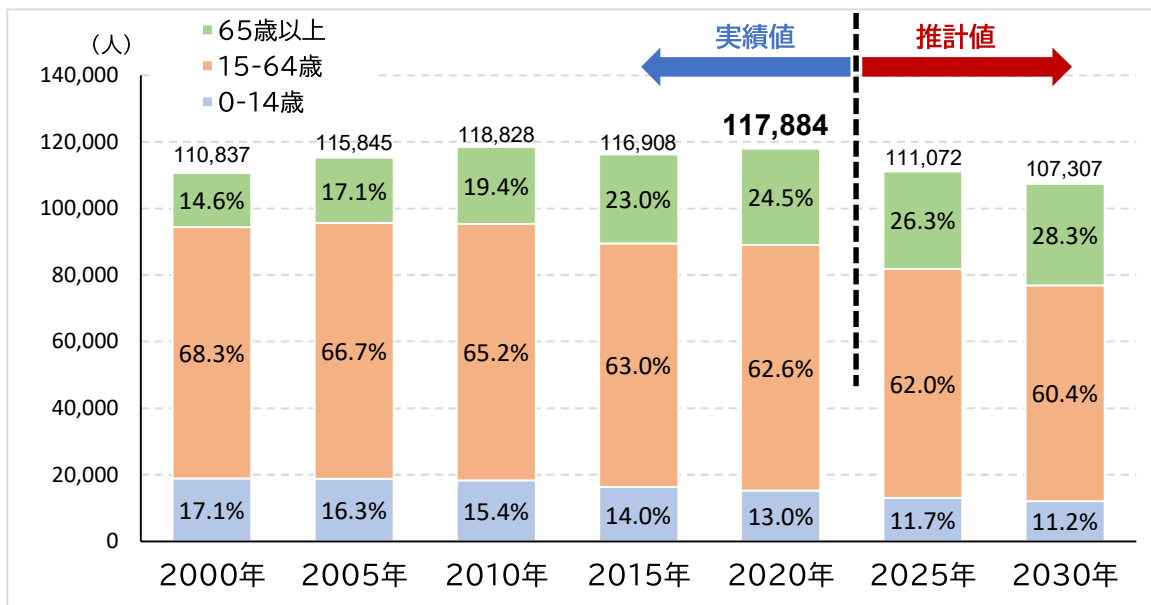
(1) 人口

本市の人口は、2020年の国勢調査時点で117,884人となっており、2010年ごろからおむね横ばい傾向となっています。

しかし、2000年以降、14歳以下の年少人口割合は減少し続けているとともに、65歳以上の高齢人口割合は増加し続けており、少子・高齢化が進行しています。

また、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2025年以降人口が減少するとされています。

▼ 年齢3区分別人口・割合の推移



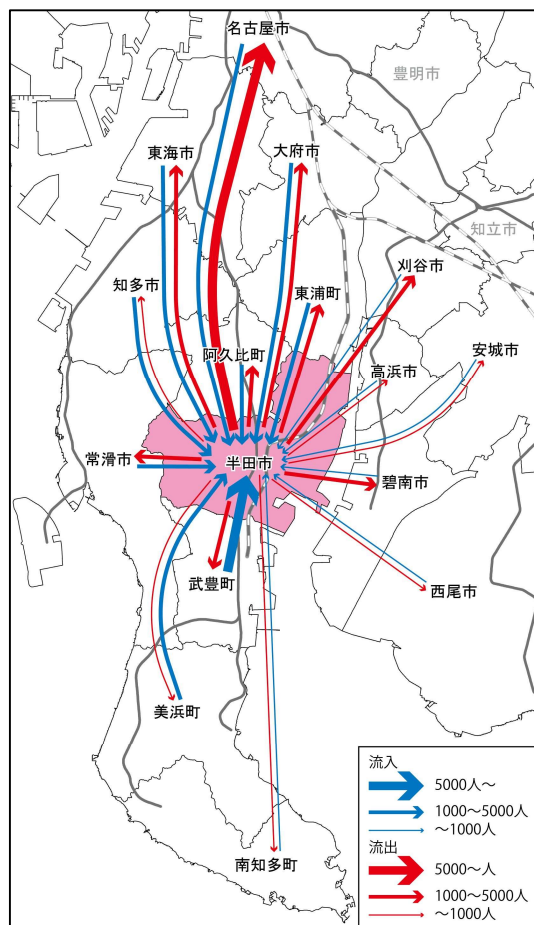
資料：国勢調査(e-Stat)、国立社会保障・人口問題研究所

(2) 人流

本市と関連する通勤・通学流動は、名古屋市（流入：2,551人／流出：6,345人）、武豊町（流入：5,293人／流出：2,930人）、常滑市（流入：2,591人／流出：2,906人）の順で多くなっており、この2市1町とのつながりが強くなっています。

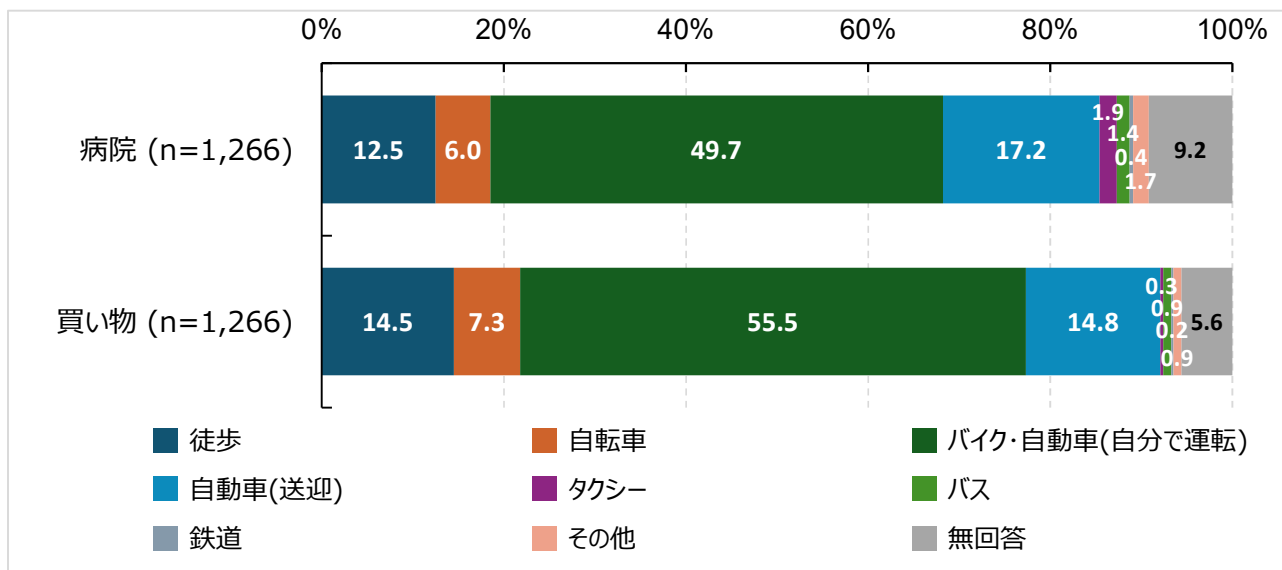
また、買い物や通院といった日常生活の移動では、半数～約8割の人が市内の施設へ行っていますが、その移動手段はバイク・自動車（送迎を含む）が約7割となっています。

▼ 通勤・通学流動図



資料：2020年国勢調査（e-Stat）

▼ 普段、病院・買い物に行く際に利用する移動手段

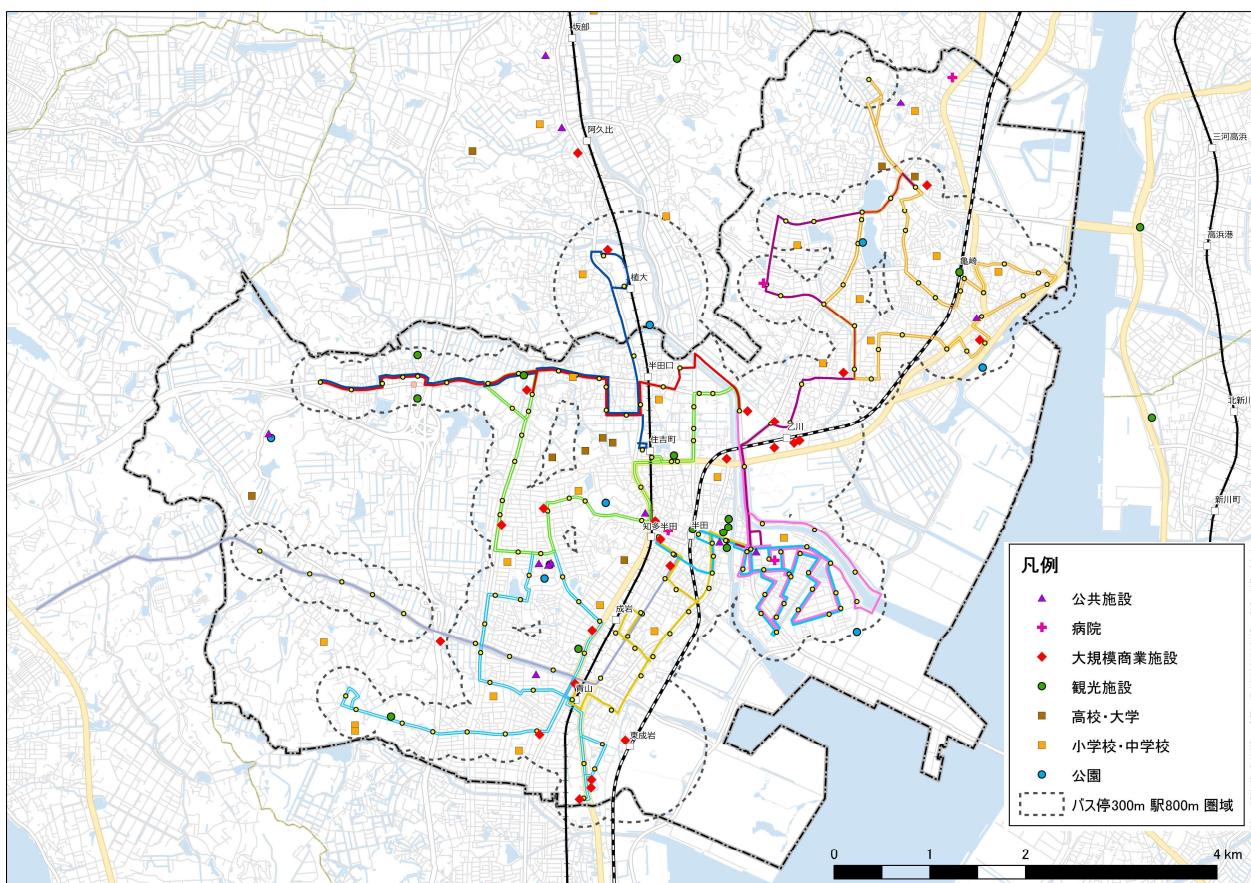


資料：2023年公共交通に関する市民アンケート調査

(3) 施設立地

本市内の主要施設の立地状況は、概ね公共交通利用圏域内（鉄道駅から800m、バス停から300m）に立地しているものの、公共交通の利用が見込まれる高校・大学の一部において、公共交通利用圏域から外れて立地しています。

▼ 市内主要施設の立地状況



資料：国土数値情報、大型小売店舗総覧

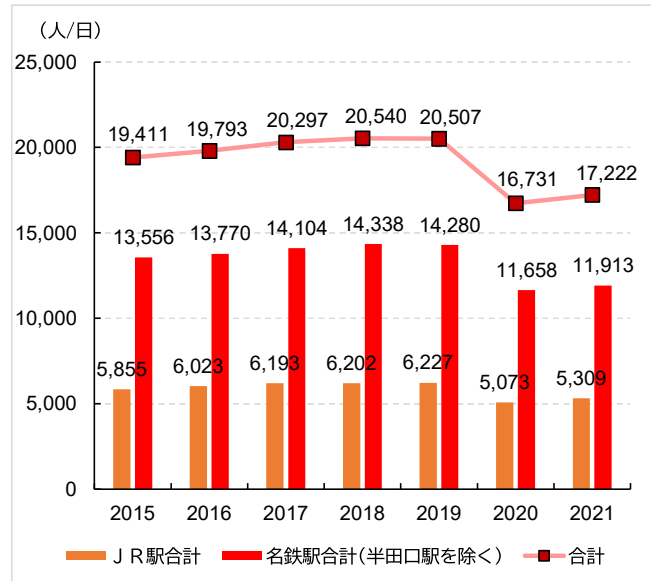
2) 地域公共交通について

(1) 鉄道

鉄道は2社2路線が運行されており、主に名古屋方向への通勤・通学や、広域的な日常生活の外出に利用されています。

本市内にはJR武豊線では4駅、名鉄河和線では5駅が存在しており、1日当たりの利用者数（乗車人員）は、2019年度では1日当たり2万人を超えていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅に減少し、現在は回復基調にあります。

▼ 鉄道利用者数（乗車人員）の推移



資料：2022年版・知多半島の統計

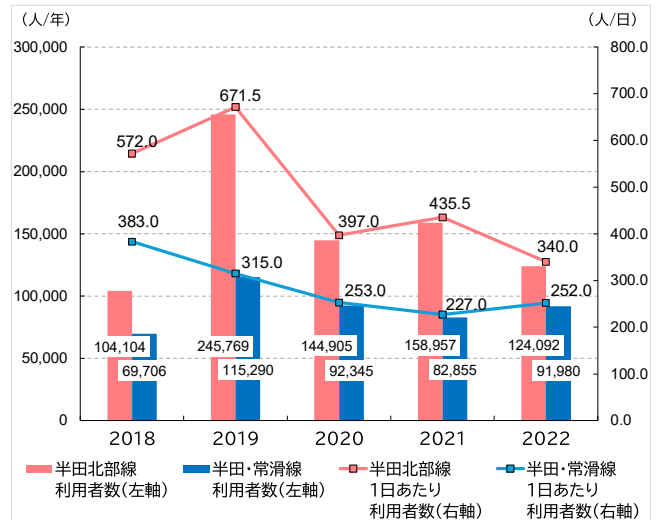
(2) 路線バス

知多半田駅を中心として、知多乗合により「半田北部線」と「半田・常滑線」の2路線が運行されています。

なお、半田・常滑線は、一部系統を除いて地域公共交通確保維持改善事業の地域間幹線系統補助路線に指定されています。

利用者数は2路線ともに、新型コロナウイルス感染症が流行する以前の1日当たりの値に回復していません。

▼ 路線バス利用者数の推移



※2018年度は再編後となる10月からの半年間を集計

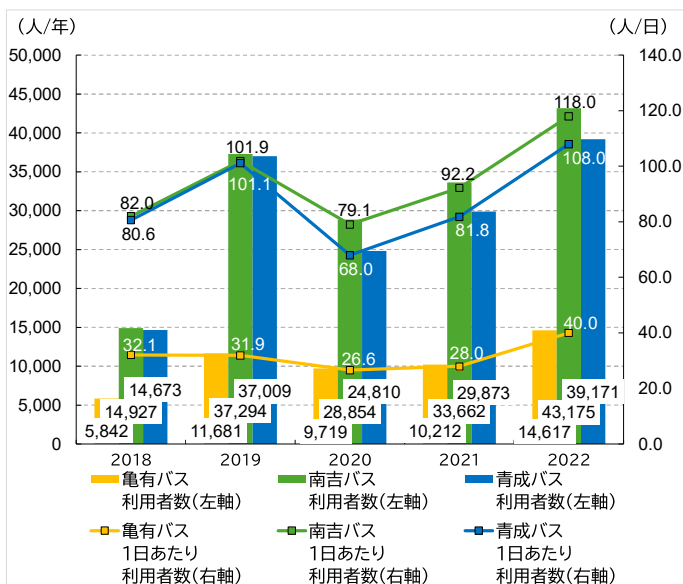
資料：半田市資料

(3) コミュニティバス

地区路線A「ごんくる」は、亀有バス（亀崎・有脇線）、南吉バス（半田中央線）、青成バス（青山・成岩線）の3路線が運行されています。

利用者は3路線とも、新型コロナウイルス感染症が流行した2020年度に大きく減少していますが、2021年度には増加に転じ、2022年度では2019年度を上回っています。

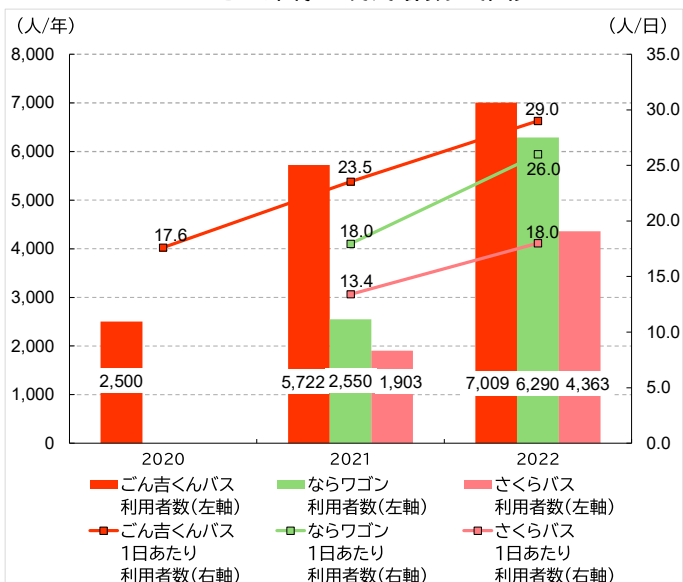
▼ 地区路線A利用者数の推移



地区路線Bは、ごん吉くんバス（岩滑小線）、ならワゴン（成岩東部線）、さくらバス（瑞穂線）の3路線を運行しています。

利用者は3路線とも運行開始以降、増加傾向が継続しています。

▼ 地区路線B利用者数の推移



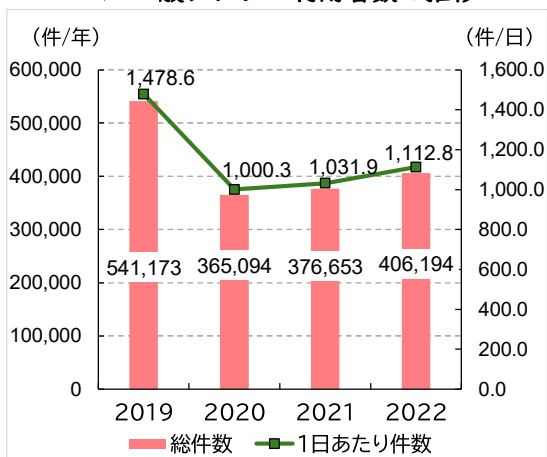
※各路線とも運行開始初年度は運行期間のみを集計
資料：半田市資料

(4) 一般タクシー

本市内では2023年12月現在、市内事業者2社では54台のタクシーが営業しています。

利用件数は、新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年度に大きく減少しており、その後回復していません。

▼ 一般タクシー利用者数の推移



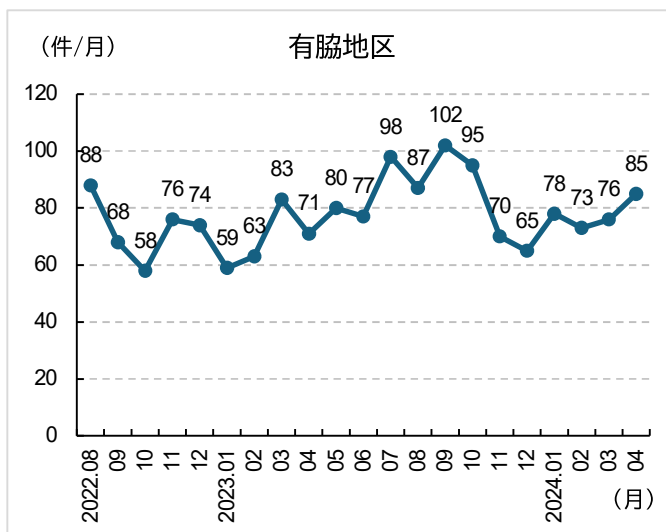
資料：半田市資料

(5) おでかけタクシー

有脇地区、横川地区では一般タクシーの仕組みを活用した地域交通「おでかけタクシー」が運行されています。

有脇地区の利用件数は、月で概ね 60～100 件程度であり、2023 年度の 1 件当たりの利用人数は 1.21 人となっています。

▼ おでかけタクシー利用件数の推移



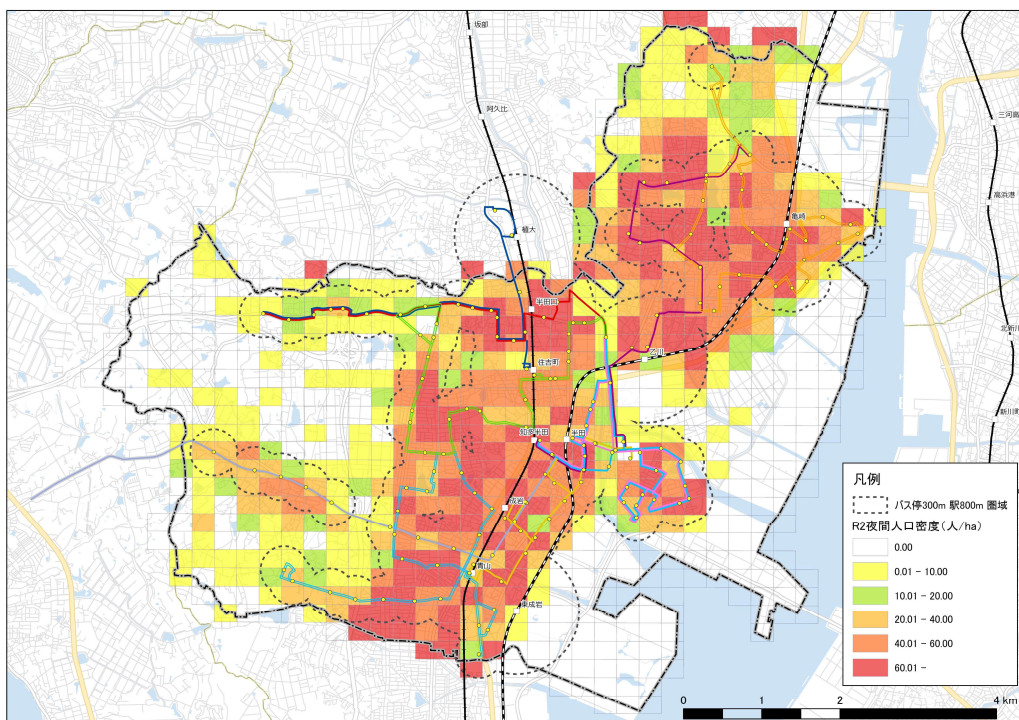
資料：半田市資料

(6) 公共交通カバー圏域・人口

鉄道駅から 800m、バス停から 300m 以内の範囲を「公共交通カバー圏域」とした場合、現在運行されている定時定路線型の公共交通における、公共交通カバー人口割合は 84.3% となっています。

これに加え、有脇地区及び横川地区で運行されている「おでかけタクシー」により、実際のカバーされる人口は増加し、カバー人口割合も高まります。

▼ 公共交通カバー圏域図



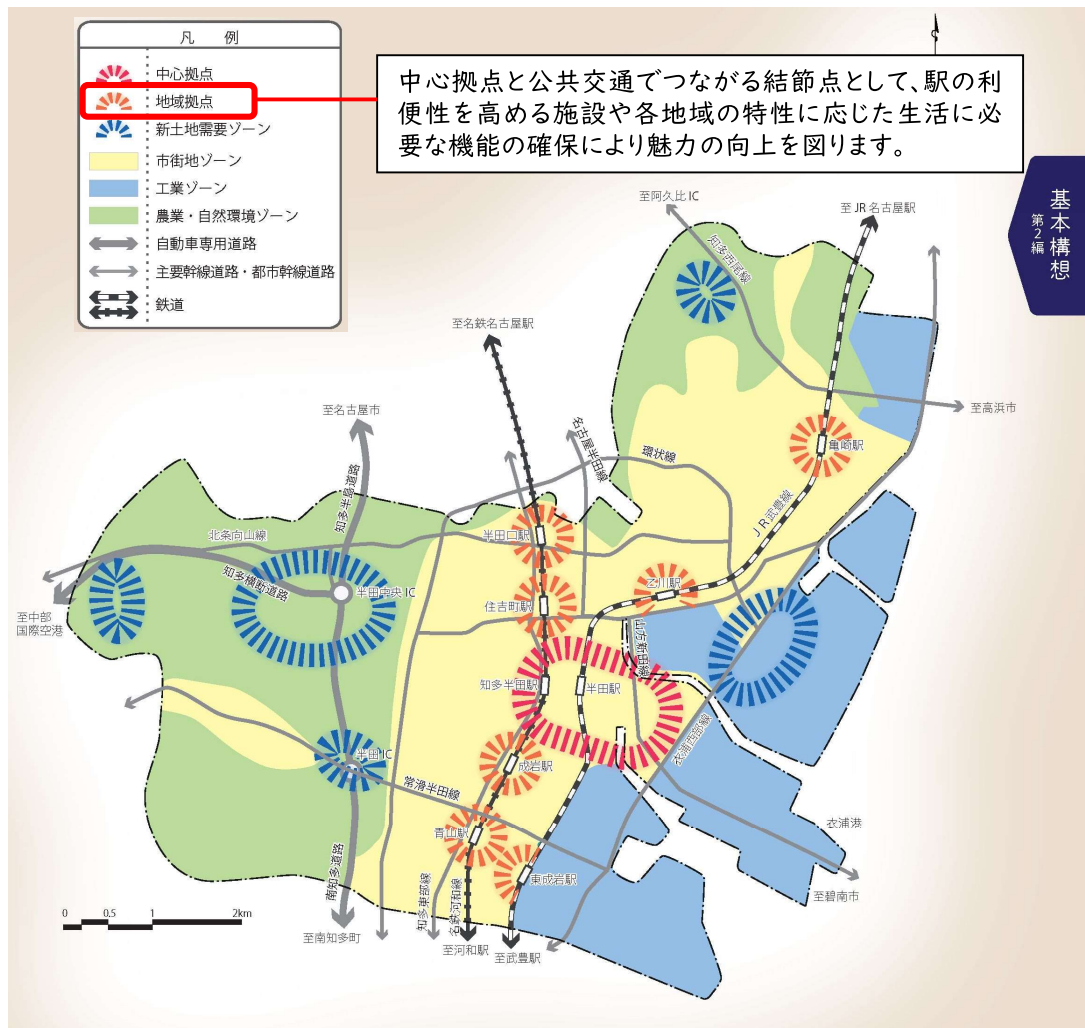
3. 上位・関連計画、社会情勢の整理

1) 半田市の上位・関連計画

(1) 第7次半田市総合計画

項目	内容
将来の都市像	人がまちを育み まちが人を育む チャレンジあふれる都市・はんだ
施策体系	1 学びあい育ちあう 自分らしさと夢を育むまち 2 地球に配慮しながら成長する 都市の活力を育むまち 3 つながり助けあう 健康と笑顔を育むまち 4 安心・安全で快適な生活 質の高い暮らしを育むまち 5 互いを尊重し知恵と力を活かしあう 豊かさを育むまち
個別施策	●公共的な交通手段の利便性向上 路線バスの利用促進や地域との連携・協働のもと、市民の移動手段の確保に取り組むとともに、待合環境整備や情報発信などにより、便利で移動しやすい環境を構築します。また、未来技術の進展などに応じて、新しい移動手段を調査・研究します。

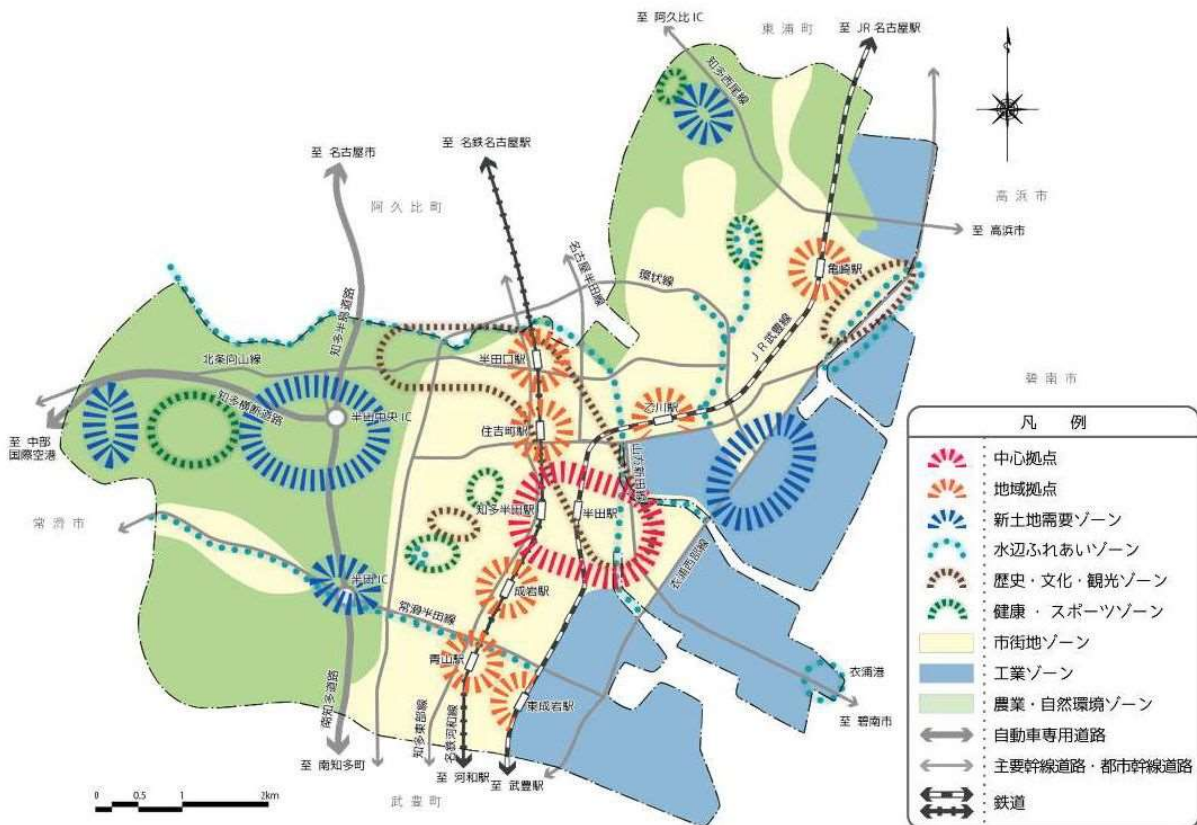
▼ 土地利用構想図



(2) 半田市都市計画マスタープラン

項目	内容
都市づくりの基本理念	活気に満ちあふれた、暮らし続けたい都市・はんだ
都市交通の基本的な考え方 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通ネットワークの強化やパークアンドライドの推進により、過度に自動車に依存しない都市づくりを目指します。 ・社会情勢の変化に対応した公共交通体系の構築を図ります。 ・新技術を活用した安全で持続可能な交通サービスについて検討します。 ・半田病院の移転に伴い、アクセス利便性を確保するための施策を検討します。
公共交通等の方針	<p>【鉄道】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道事業者との協力により駅施設の耐震化を促進し、利用者の安全性の向上を図ります。 ・駅利用者の利便性向上のため、駅前広場の整備を推進します。 <p>【バス等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者と連携し、中心拠点や地域拠点と居住地をつなぐバスネットワークの強化を図ります。 ・利用状況やニーズを踏まえ地域路線バスネットワークの改善を継続的に行うとともに、市民のニーズを反映した地域バス等を導入し、公共交通空白地域の解消を図ります。

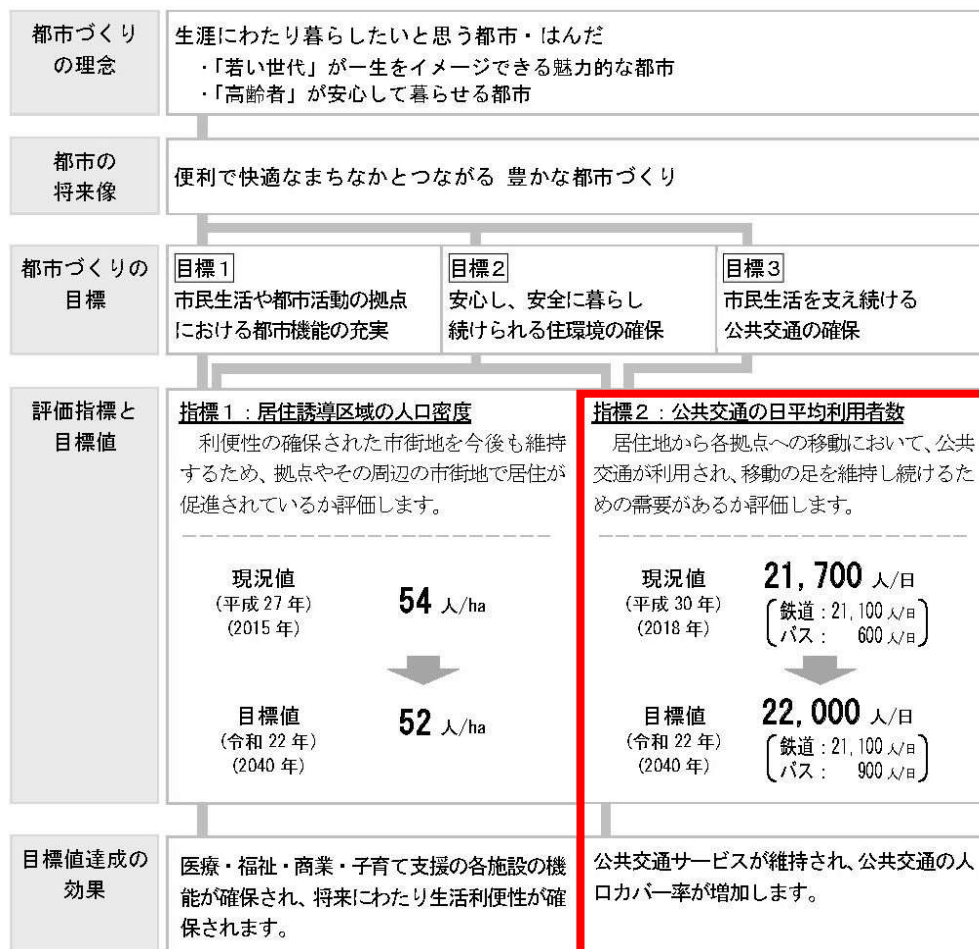
▼ 将来都市構造図



(3) 半田市立地適正化計画

項目	内容
都市づくりの理念	生涯にわたり暮らしたいと思う都市・はんだ
将来の都市像	便利で快適なまちなかにつながる 豊かな都市
都市づくりの目標	<p>目標1 市民生活や都市活動の拠点における都市機能の充実</p> <p>目標2 安心し、安全に暮らし続けられる住環境の確保</p> <p>目標3 市民生活を支え続ける公共交通の確保</p> <p>・高齢化が進行する中で、一団の住宅地から市の中心部や地域の拠点に公共交通や徒歩で移動できるよう、バス事業者や地域住民と連携し、効率的な公共交通ネットワークを形成します。</p> <p>・公共交通について住民が主体となって検討することで、需要やニーズに応じた運行手法の導入等による生活環境の確保に努めます。</p>
公共交通軸	<p>①鉄道軸</p> <p>・主に本市と隣接市町や名古屋市方面との都市間移動に対応する路線であり、現行の利便性を確保します。</p> <p>②基幹バス軸</p> <p>・公共交通のつながりを強化し、交通利便性を向上させるため、住宅地や中部国際空港と中心拠点を連絡します。</p>

▼ 都市づくりのイメージ



(4) 半田市立半田病院 新病院建設構想（改訂版）

令和元年11月に発行され、令和7年春に開院予定の新半田病院の建設方針等について記載されています。

新病院整備の基本方針のうち、アプローチ計画において交通に関する記載があります。

●アプローチ計画（抜粋）

- ・ 来院者の利便性を図るため、送迎車両、タクシー、バス等の乗り入れができるロータリーを正面玄関に設置する。また、来院する利用者が、雨に濡れずに建物へアプローチできるよう、エントランス周辺に乗降スペース等を確保する。
- ・ 緊急車両やバス・タクシー、自家用車等の車両アプローチについては、救急医療の提供・患者利便性・交通面での安全性等の観点から、それぞれの動線が交錯しないように配慮した計画とする。

▼ 新病院完成イメージ



資料：半田市立半田病院 Web サイト

2) 公共交通に関連する社会情勢

(1) Society5.0 を実現するDXの推進

「Society5.0」は、AIやIoT等の技術革新を様々な産業や社会に取り入れることで、経済発展と社会的課題の解決を両立する未来社会のコンセプトとして、2016年に提唱されました。Society5.0の実現のため、近年DX（デジタルトランスフォーメーション）が進展しています。

交通分野では、スマートフォンによるタクシーの配車アプリを用いた配車予約が広がっているほか、MaaS（Mobility as a Service）、AIを活用したデマンド交通など新たな技術を活用した取組が進められています。

▼ AI を活用したオンデマンド交通のイメージ



資料：国土交通省

(2) 交通GX・カーボンニュートラルの実現に向けた取組み

地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けて、2015年にパリ協定が採択され、120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げています。日本では、2020年10月、政府が2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。

公共交通分野では、再生可能エネルギー電源で動くLRTやBRT、燃料電池鉄道車両などの公共交通や電動車カーシェア、自転車インフラ、デジタル技術を活用した新たなモビリティなど、脱炭素型の地域交通の整備等が地域脱炭素ロードマップに施策として位置づけられています。

▼ EVバス・EVタクシー

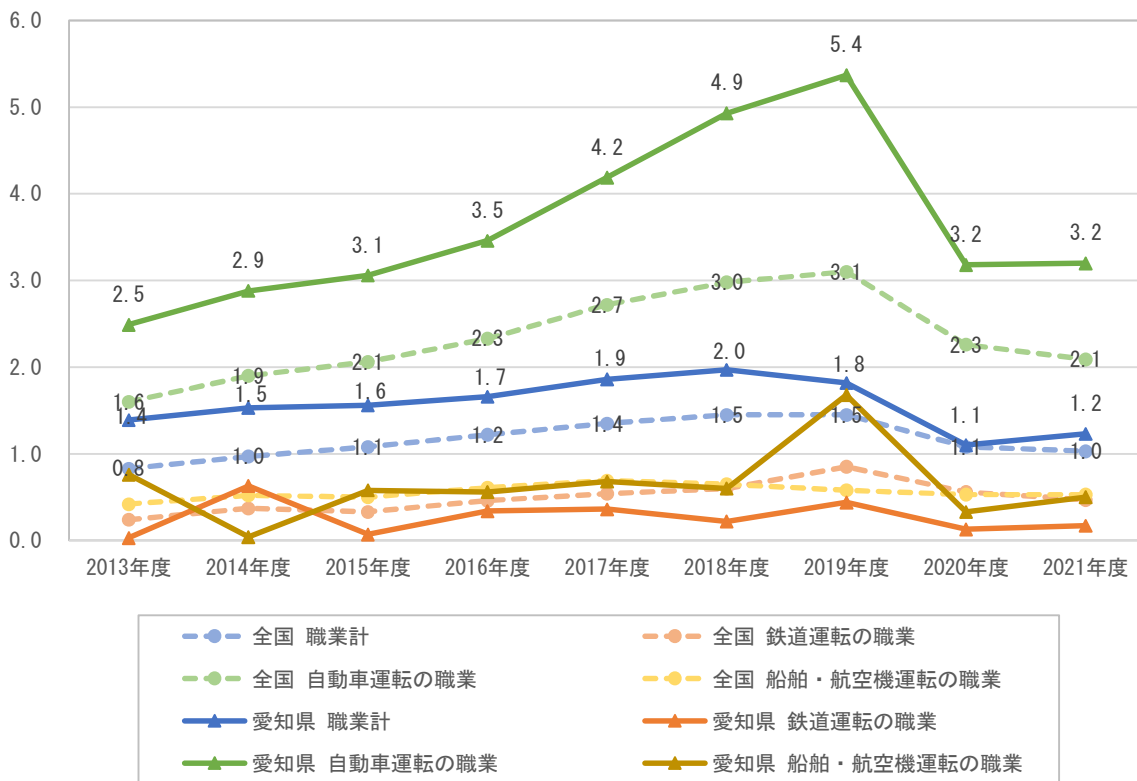


資料：知多乗合、安全タクシー

(3) 運転手不足の深刻化

自動車運転の職業の有効求人倍率は、全職業平均に対して全国では約2倍、愛知県ではさらに高い水準で上昇しており、路線バス・タクシーを含めた運転手が不足していると考えられます。そのため、運転手確保が進むような取り組みについて、官民一体となって、共に考え、実施する必要があります。

▼ 輸送・機械運転の職業の有効求人倍率の推移



資料：最近の雇用情勢、一般職業紹介状況（職業安定業務統計）

4. 公共交通に関するニーズ把握

●調査の目的

2018年3月に策定した半田市地域公共交通網形成計画の評価を行うとともに、2018年10月より本市のバス路線網が再編されたことの効果を検証することや、半田市地域公共交通計画を策定するための基礎資料を収集することを目的として、市民アンケート調査及びバス利用者アンケート調査を実施しました。

●調査概要

①市民アンケート調査

項目	内容
調査対象	12歳以上の半田市民3,000人（1人1票）
配布・回収方法	郵送にて配布、郵送またはWebで回収
調査時期	2023年10月1日～17日
回収数	1,266票（回収率：42.2%）

②バス利用者アンケート調査

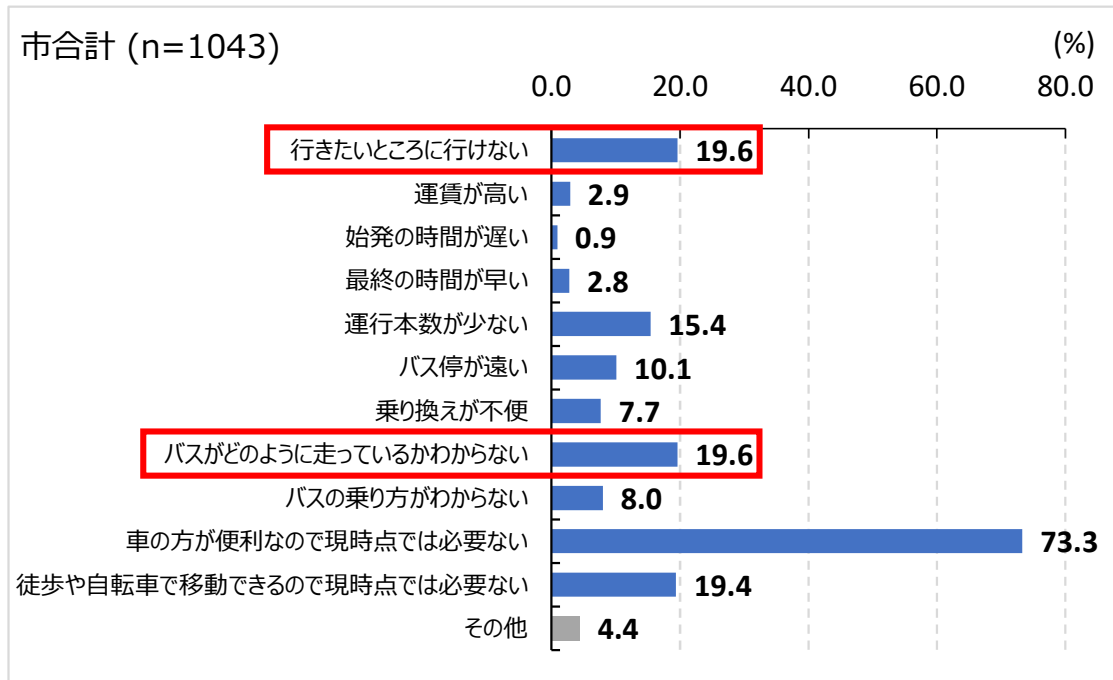
項目	内容				
調査対象	地区路線A（ごんくる）3路線 知多乗合（路線バス）2路線 の調査日程中の全利用者 （調査日程中に1人1票）				
配布・回収方法	乗車時に手渡しにて配布、郵送で回収				
調査時期	地区路線A（ごんくる）：2023年10月19日（木）・22日（日） 知多乗合（路線バス）：2023年10月20日（金）・21日（土）				
配布・回収結果		路線	配布数	回収数	回収率
	地区 路線 A	亀崎・有脇線	55	34	61.8%
		半田中央線	119	58	48.7%
		青山・成岩線	128	54	42.2%
	知多 乗合	半田・常滑線	268	98	36.6%
		半田北部線	303	86	28.4%
		路線不明	—	6	—
	合計	873	336	38.5%	

1) 市民アンケート調査

(1) バスを利用しない理由

調査票回収数の1,266票から、当該設問の無回答12票を除いた1,254票のうち、1,043票で「1年以内にバスを利用していない」と回答があり、その理由を尋ねたところ、「行きたいところに行けない」及び「バスがどのように走っているかわからない」の項目の回答が最も多くなりました。

▼ バスを利用していない理由

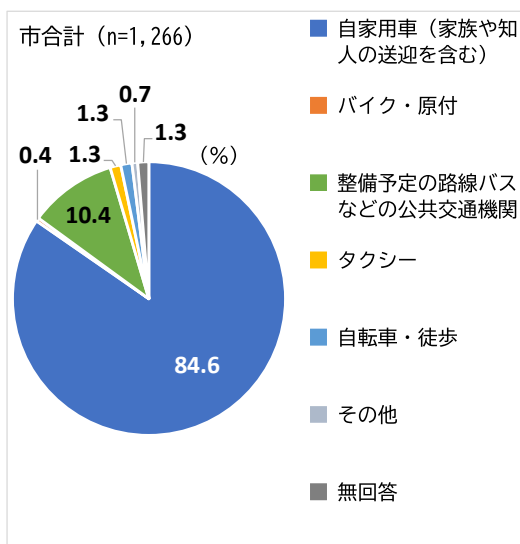


(2) 新半田病院への移動手段と病院の利用頻度

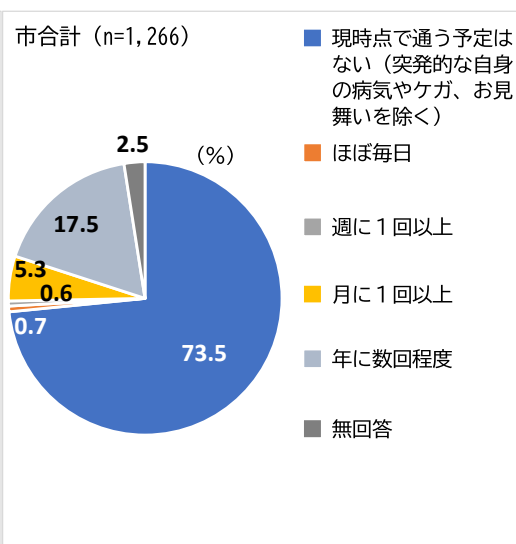
新半田病院へは85%の人が（送迎を含む）自家用車やバイク等で行くことを想定していますが、約10%強の人は公共交通機関を想定しています。

また、月に1回以上利用する予定の人は約7%となっています。

▼ 新半田病院への移動手段



▼ 新半田病院の利用頻度



2) バス利用者アンケート調査

(1) 調査票を受取ったバスのサービス項目別の満足度と重要度

バスサービスに関する 16 項目について、それぞれの満足度と重要度を尋ねたところ、地区路線A（ごんくる）全体では「①運行本数」や「④乗り継ぎの際の待ち時間」、「⑤運行している時間帯」の項目が、満足度が低く・重要度が高い項目となりました。

地区路線A（ごんくる）の中でも、路線別に満足度の低い項目は異なります。

▼ バスサービス項目別満足度と重要度の関係（地区路線A(ごんくる)合計)

